

# 第 34 回 世界遺産検定 マイスター試験 講評 および 学習方法

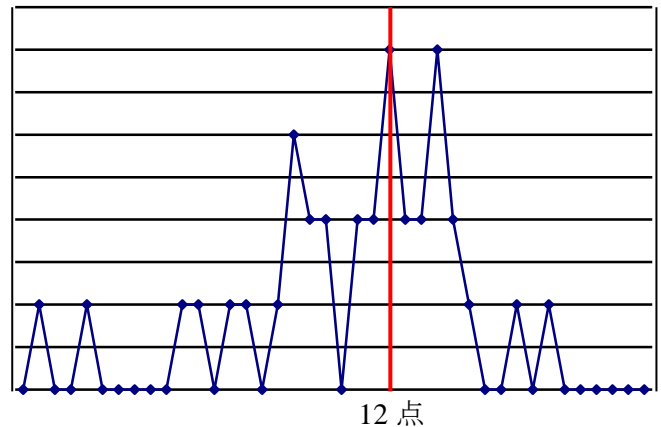
1. 実施概要    2. 認定点と分布    3. 問題    4. 総評    5. 各問の短評と学習法

## 1. 実施概要

検 定 日：2018 年 12 月 16 日（日）  
検定会場：東京・名古屋・大阪  
検定時間：120 分  
解答形式：論述形式（記述）  
申込人数：43 名  
受検人数：35 名  
認定者数：16 名（認定率 45.7%）

## 2. 認定点

認定点：12 点（20 点満点）  
最高点：17.0 点  
最低点：1 点



## 3. 問 題

1 次の語句を簡潔に説明しなさい。  
1. 登録基準（iii）  
2. 顕著な普遍的価値  
3. 京都ビジョン（2012 年）

2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400 字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。  
文化遺産と自然遺産                      国際的な協力体制  
教育・広報活動                              報告

3 世界遺産の登録数が 1,000 件を超えた一方、ユネスコの資金不足などの問題から、世界遺産の登録数抑制に関する意見も出てきている。世界遺産の登録数の増加とその問題点、またその解決策として考えられることについて、具体的な遺産名を挙げながら 1,200 字以内で論じなさい。

## 4. 総 評

例年、3 の解答で必要な文字数に達していない受検者が一定数いたが、今回はほとんどの受検者が十分に解答を記述していた。これはアメリカ合衆国などの分担金拠出停止やそれに続くユネスコ脱退、ユネスコの資金不足などがニュースとして取り上げられることも多く、受検者が注目していたためであると考えられる。マイスター対策としてはとてもよい傾向だと感じた。しかしその中で、ニュースで取り上げられている内容を、問題に即して再構成できていかどうかで点数に差が出た。前回、点数に差の出た 1、2 は、今回は概ねよく解答できていたように感じた。最後に、前回に引き続き、改行や段落あけなど、文章としての体裁が不十分である解答が相変わらず多かった。文章は人に伝えることが重要であり、体裁を整えるのもマイスター試験対策のひとつであるとの認識が必要である。

## 5. 各問の短評と学習法

1

**短評：**それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「登録基準 (iii)」では文化的伝統や文明の存在を示すだけでなく、人類の化石遺跡など途絶えた文化や文明を含むことも触れる必要がある。「顕著な普遍的価値」はよく解答できているものが多かった。「京都ビジョン (2012 年)」では、内容だけでなく、いつ何のために採択されたものであるのかまで書かれていた解答は点数が高くなった。

**学習法：**このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

**短評：**指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。どの指定語句が出てきても同じような解答をしたと考えられる曖昧な内容のものは点数が低くなった。特に、「教育・広報活動」と「報告」の使い方で差が出ていた。「教育・広報活動が重要である」だけでは充分ではなく、誰が誰に対してどのような教育・広報活動をするのか、報告は何をどこに対して行うのかまで短い言葉で書かれている必要がある。その辺りを指定語句によって内容を修正しつつ解答をしなければならないということに対策しておく必要がある。

**学習法：**書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくといよい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

**短評：**世界遺産に関するテーマについて、独自の意見を論理的に論ずる問題。今回の解答で求められているのは、世界遺産の登録数が増加することの「問題点」とそれに対する「解決策」である。ユネスコの資金不足やアメリカのユネスコ脱退などの話は、議論の前提ではあるがそれを議論の中心にしてしまうと求められる解答からずれてしまう。その辺りの情報をどのように解答に組み込んでいけるかで差が出ていた。さらに高得点の解答では、各世界遺産委員会の審議遺産数を抑えるという多くの解答者が触れていた論点に教育・広報活動で世界遺産の信頼性やブランド力の低下を抑えるという独自の視点を入れるなど、大きな見方から論じていた点が評価された。

**学習法：**1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくといよい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。